

■対談／お茶でものみますか⑥

# 神戸を愛してやまない男が 神戸ブランドをブロードキャストする

企画第一主義をポリシーに商品の素材と仕様にこだわる株式会社エフエルエス。

爆発的ヒットした「らくらくパンツエコックス」のヒット裏話や、神戸を拠点として

自社メディアを武器に神戸ブランド復活を目指す荒牧社長の想いを伺った

荒牧英樹

(株式会社エフエルエス代表取締役)

VS

玉岡かおる

(作家)



## 爆発的大ヒットのパンツ！ きっかけはエコハブラシ？！

玉岡 先ほどエフエルエスさんのお店を拝見させていただいた時に、スタッフの方から爆発的に売れたパンツがあるとお聞きして感動しました。その商品の魅力はどの辺に・・・

荒牧 「タテ・ヨコ・ナナメによく伸びて、らくらくパンツエコックス」という商品コピーのパンツで、本当に楽なのです。デニムってハードなイメージがありますからね、特に団塊の世代はね。このエコックスは、縦糸と横糸にストレッチ素材を使用しているため、縦にも横にも伸びるの

で動きやすいことに加え、フイット感があるために身体にピタッとしていてはき心地がよいのです。

玉岡 なるほどそうですね。タテ・ヨコ・ナナメに伸びるパンツがあるなんて、私の知っている範囲ではなかったです。伸縮自在で履き心地がよくてファッション性があるエコックスは発売当初から爆発的に売れたのでしょうか。

荒牧 それがあまり売れなかったのです。発売したのは10年程前ですが、当時はストレッチのパンツをミセスの方はあまりはかなかったのです。理由は自分の身体のラインが出てしまうというので。エコ

ックスも同様の商品と売られて売れなかったのです。

玉岡 それがいまや他のアパレル企業から問い合わせが殺到するような大ヒット商品になったのですね。

荒牧 最初はあまり売れないので、どうしようかと思ったのです（笑）。そこでハタと思い浮かんだのが試着された方にドイツ製のエコハブラシを1本プレゼントしよう。当時は奥さま方もハブラシをバックに入れて持ち歩かれる時代になりつつあったのです。試着をしてそのはき心地のよ







荒牧英樹(株式会社エフエルエス代表取締役)

大手アパレル企業を退職後、(株)WIsを設立。ブティックを経て広告代理業に。現在は、婦人服卸業を中心にプロモーション映像作成、テレビ・ラジオなどの番組制作など地域への情報発信も行う。社内にある映像スタジオでイメージによって商品を売っていくなど独自路線が各地に革命を起こしている。神戸を発信とし、世界に通用する人、商品、情報を送り出す。

時にはアパレルの仕事をするつもりはありませんでした。何か社会性のある仕事をしたかったのです。

玉岡 いまされているお仕事も神戸のファッション界を活性化しようとしていっているのですから、十分社会性のある仕事だと思っています。

荒牧 そのように言っていたいてありがとうございます。36歳で独立したのですが、

さに驚かれて、気に入って買い上げただけなのです。百貨店で月間1本ぐらいしか売れなかったのが、一番よく売れた月で1200本も売れた商品になりました。

## 5月5日に生まれてきた男の子が独立の道へ

玉岡 荒牧社長は早くからご自分で起業しようと考えておられたのでしょうか。

荒牧 そうでもなかったのですよ。大学を卒業後レナウンに入社してからは、現場から

営業まで経験し、レナウンでずっと仕事をさせてもらおうと思っていました。結局13年在籍しました。

玉岡 では何がきっかけで独立しようと思ったのですか  
荒牧 すぐくプライベートなことになりますが、結婚して生まれた子供が3人とも女の子だったのですが、5月5日に生まれた4人目の子供が男の子だったのです。それで肩の荷が降りたような気がしたのです。息子の誕生をきっかけに好きな事をしてよいような気がしました。退職した

ビジネスの世界は厳しかったです。銀行などの信用を得る事ができたのは40歳をすぎたからでした。40歳の頃から始めた広告代理店と印刷会社は90年頃は業績が好調で浮かっていたところがありました。いいことは続かないもので、バブルが崩壊して業績も悪化した時に震災になり、会社が入っていたビルと倉庫がつぶれて神戸で仕事ができなくて、福岡に仕事の場を移しました。そこで「In Wear」というデンマークのブランドに出会った事が今日のエフエル

エスの源になります。

玉岡 オリジナルブランドの「エコックス」以外にもショップではデンマークなどのブランド商品を数多く取り扱われていますが、デンマークへのこだわりは・・・

荒牧 デンマークの人は特徴として、人間のバランスがとても良いのです。古い物を大切にし、環境への配慮も心がけています。よくデンマークの人は「ヒュッケだね」という言葉を使うのですが、これは「空間を楽しんでいますか？」という意味で、時間と空間を

とても大事にする人達です。生きがいに方向性を持っているという気がします。

### 電波と映像コンテンツが 神戸の地域性をより高める

玉岡 本社ビル1階のデンマークショップ入口には本格的なサテライトスタジオがあったり、4階にはビデオ制作の映像スタジオがあったり、アパレルメーカーの本社ビルとは少し様子が違っていますね。荒牧 世界の先進国に共通している事です、経済の中心



玉岡かおる(作家)

三木市生まれ。神戸文学賞受賞作の『夢喰い魚のブルー・グッドバイ』で新潮社より作家デビュー。著書に、『をんな紋』三部作(角川書店)、『天涯の船』(新潮社)など。執筆活動の傍ら、テレビなどのコメンテーターや行政の各種審議会委員などとても活躍中。2000年加古川市特別文化賞受賞。加古川市在住。

が一極集中になっています。日本も東京ですよ。なぜそのようなになるかですが、お金と人、物が集まるところにまたお金と人、物が集まります。そのような状況の中、神戸の企業である当社が対等にビジネスをやろうとした時、私達の武器は電波しかないのです。電波を有効利用するためには映像を電波にのせるのが一番です。電波を利用すれば神戸というハンディキャップを感じることなくビジネスができます。そして、映像というコンテンツを自社で制作する事のメリットもあります。「MISSION」という商品企画のエピソードをテーマにした映画を制作しました。消費者に当社の製品へのこだわりを伝えることができたことも大きいですが、映画制作に携わった社員の意識が変わり、仕事に対する責任感が全然違ってきています。この事は私が考えている産業人を創りだすということにつながって





いると思います。

## 神戸ブランドの再生を担う 産業人を創りだす

玉岡 震災後の神戸は元気がなくて、神戸ファンの私としては寂しい限りです。今の荒牧社長のお話を聞いて勇気づけられました。もっと神戸ブランドを大切にして活用していかねければなりませんね。

荒牧 そのためにも産業人を創らなければならぬと思います、本社内に自社工房を設けて商品企画から、デザイン、パタ



ーン、サンプル作成までできるようにしています。この事により限られた範囲の仕事だけでなく、制作から営業まで全体を見渡せる産業人を養成できていると自負しています。

玉岡 産業を創りだすためには良い人材を育成する事から始まりますが、その次は優秀な人材を育む地域社会の存在も重要です。

荒牧 兵庫県にはファッションに関係ある地場産業が数多くあります。豊岡市のカバン、西脇市の織物、長田区のケミカルシューズ、中央区のアパ



レルなどですが、これらの産業が一緒になって「神戸ブランド」という形で発信すれば、凄いパワーになると考えています。幸い私は神戸におりますので、行政の人達とも連携をとりながら地域産業との関わりをもち、進めて行こうと考えています。

## 夢と希望に溢れ、素敵な ドラマが生まれる街神戸

玉岡 神戸とハリウッドを舞台にした映画を制作するとか仮面舞踏会を神戸で開催する



などの構想を持っておられるとお聞きしましたが。

荒牧 神戸とハリウッドで二人の若者の人生が同時進行するようなストーリーにしようと考えています。内容は若者向けです。11月にはハリウッドでオーディションパーティーを開催して出演者を募ります。この話の先はお楽しみという事で…(笑)。

それと、神戸の街をパーティーのできる街にしようと考えています。神戸市に仮面舞踏会を神戸でやりましようという話を持ちかけています。ベネチアの仮面舞踏会と神戸の仮面舞踏会をつなぐという事で、私いま一生懸命に社交ダンスを習っています。来年2月のベネチアの仮面舞踏会で踊ろうと特訓中です。

(エフエルエス本社ビルにて)



# パールで自分らしさを装う



世界中の女性を魅了する海からの贈物。  
優雅、清楚、気品、華麗、多彩な魅力にあふれるパール。  
時にはフォーマルに、時にはカジュアルに。  
パールで自分らしさを装い、ワンランク上のお洒落を楽しみたい。

写真提供／田崎真珠

# 人の心を和ませる アート感覚で商品開発を

インタビュー／田崎俊明さん

創業時から当社は、ファッションと真珠の関わりを強く意識して商品開発に取り組んでまいりましたので、デザイン開発セクションはかなり充実していると自負しています。

これまで、真珠を身近なものに感じていただきたいと願ひ、多様なデザインの提案を行ってまいりました。例えば、最近のヒット商品のひとつである「パールヴァリエ」は、ネックレスの結び方によって、様々な魅せ方が楽しめる商品です。「パールヴァリエ」の「ヴァリエ」は「ヴァリエーション」

「ン」を意味しています。身につける方のセンスで、カジュアルにもフォーマルにも使いこなしていただけます。多様な表情をもつ真珠の魅力を思い思いのコーディネートで楽しんでいただけます。

また、メセナ活動にも、積極的に取り組んでいることも、当社の大きな特徴だと思ひます。人の心を和ませるものがアートです。和みは人と人とのコミュニケーションに不可欠です。特にクラシック音楽にはそのような要素が大きいと思ひます。近年では、世界

的な音楽家、ロリン・マゼール氏の活動を支援させていただき、人を感動させ、豊かな感性を養っていただけるような付加価値の高いイベント活動をつづけております。

本社の1階、2階では、多数の方に真珠の知識や魅力を知っていただくために展示スペースやビデオルームを設け、鑑賞していただいております。日本が誇るあこや真珠の歴史をはじめ、真珠のコミュニケーションや当社が誇るジュエリーデザイナーの傑作の数々をお楽しみいただけます。

今後の当社のビジョンのひとつですが、現在、日本各地をはじめ中国・台湾・香港に出店しています。グローバル企業として、まだまだ発展していかなければならないと思ひます。ヨーロッパやリゾート地への出店も、これからは必要でしょう。これまで当社は真珠を中心とした「田崎真珠」というイメージでやってきました。もちろん真珠は核となる商品ですが、今後は宝飾品を総合的に扱う「タサキ」のブランドイメージを打ち出していきたいと思ひています。



田崎真珠株式会社  
代表取締役副社長  
田崎 俊明さん



パールヴァリエが放つ、あこや真珠とクリスタルストーンの輝き。

パーティの席では、胸元が大きく開いたワンピースに合わせて、

黒のニットにはスカーフのようにアレンジすればカジュアルな装いに。

気分やファッションに合わせて、変幻自在に自分らしさをコーディネート。



Pearlvaria

田崎真珠ギャラリー	078-303-7667
神戸ポートピア店	078-302-1560
三宮センター街東店	078-334-0281
三宮センター街西店	078-391-4085
タサキSOL店	078-230-3302



TASAKI



*Tyche*

運命の女神「テュケ」のように  
神秘的で気品ある美しい輝き

神秘的で気品ある美しい輝きを持つ真珠は、  
古今を通じて世界中の人々を魅了し続けてきました。  
タカハシ・パールのオリジナルブランド「テュケ」は、  
ギリシャ神話の運命の女神。

そのたぐい稀な才能で、豊穡多産と予言を人々にもたら  
したいという神秘の存在です。

そんな彼女の名にふさわしく、「テュケ」の商品はすべて  
洗練された優雅なフォルムをもち、  
神秘的な光をたたえています。



クリスマスに飾ると幸福をもたらすという  
 言い伝えがある「ヤドリギ」を  
 モチーフにしたブローチとペンダント。  
 丸みをおびた葉と白い実が  
 軽やかで優しげなデザインです。  
 神聖なヤドリギが、聖夜に幸せを  
 運んでくることでしょう。



# MIKIMOTO

お問い合わせ ミキモト カスタマーズ・サービスセンター 03-5550-5678 <http://www.mikimoto.com>

<左から>

ブローチ	アコヤ真珠	シルバー製	¥39,900
ピンブローチ	アコヤ真珠	シルバー製	¥18,900
ペンダント	アコヤ真珠	YGK18	¥36,750
ブローチ	アコヤ真珠	YGK18	¥126,000

ニューヨーク・アメリカ自然史博物館が、シカゴ・フィールド博物館と共同で企画した世界巡回展。日本では初公開となり、日本展ではオリジナル特別企画として「日本の真珠」も同時に展開する。古来より人々を魅了してきた真珠。

いまだ光沢を帯びている5千万年前の真珠の化石や、マリー・アントワネット、ヴィクトリア女王、オードリー・ヘップバーンやマリリン・モンローなどの華やかな宝飾品を展示。



マリリン・モンローのネックレス  
On loan from Mkimoto(America)Co.Ltd.  
Photo by Denis Finnin ©American  
Museum of Natural History



オードリー・ヘップバーンのネックレス(プロトタイプ)  
Photo by Denis Finnin Deanna Farneti  
Cera Collection © American Museum  
of Natural History



タランチュラのブローチ  
Stefan Hemmerle, Munich © Hemmerle

神々の涙——真珠、5千年の歴史をめぐる旅。50万粒が世界より。

## 「パール」展 その輝きのすべて

2005年10月8日(土) — 2006年 1月22日(日) 国立科学博物館 (上野公園)

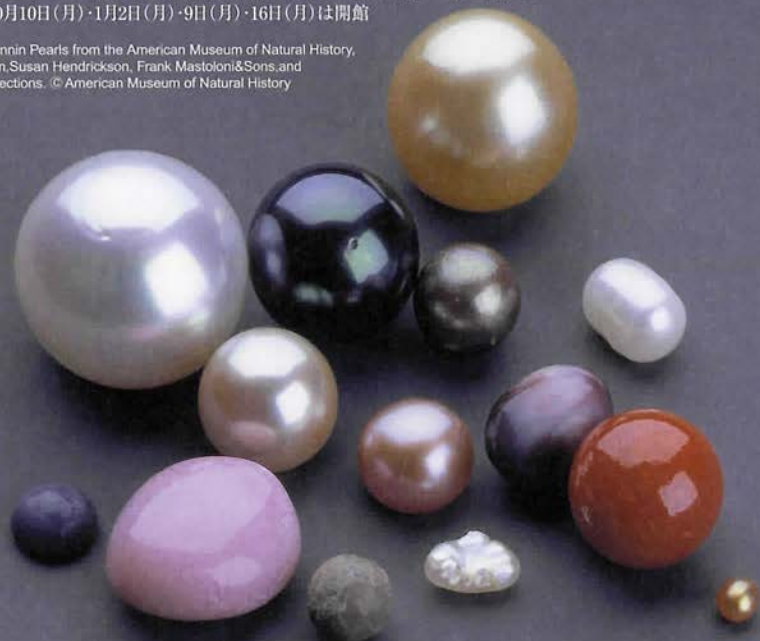
休館日: 毎週月曜日 年末年始12月28日(水) — 1月1日(日)

午前9時 — 午後5時 金曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)

※10月10日(月)・1月2日(月)・9日(月)・16日(月)は閉館

Pearls in Color

Photo by Denis Finnin Pearls from the American Museum of Natural History,  
The Field Museum, Susan Hendrickson, Frank Mastoloni & Sons and  
Gayle Pollock collections. © American Museum of Natural History



主催: 国立科学博物館・TBS・朝日新聞社 企画: アメリカ自然史博物館・フィールド博物館 後援: 文部科学省・外務省・アメリカ大使館・TBSラジオ 学術協力: 株式会社御木本真珠島

協力: (社) 日本真珠振興会・(社) 日本ジュエリー協会・日本黒蝶真珠輸入協議会・ヤマトロジスティクス・JR東日本  
輸送協力: 日本航空 特別協賛: MIKIMOTO 協賛: セコム株式会社

[お問い合わせ] ハローダイヤル ☎03-5777-8600 国立科学博物館 ホームページ <http://www.kahaku.go.jp>  
TBSホームページ <http://www.tbs.co.jp/pearlten/>





対談:

## 「まちそのものを美術館に」 兵庫陶芸美術館 オープン

井戸敏三 (兵庫県知事) vs 乾由明 (兵庫陶芸美術館長)

10月1日、日本六古窯のひとつに数えられる丹波焼の産地、篠山市今田町立杭地区に兵庫陶芸美術館がオープンした。

やきものの魅力、そして美術館の見どころや将来像について、井戸敏三兵庫県知事と乾由明兵庫陶芸美術館館長に語っていただいた。

色合いと想像力が魅力  
丹波焼は日本らしいやきもの

**知事** 兵庫県にはたくさんのやきものがあります。丹波焼はもちろん、今も息づく出石焼、江戸時代には淡路の珉平焼、三田焼、明石焼、それから姫路の東山焼。これらが産地としてかなり評価されたところだったんですね。私は珉平焼の江戸時代の後期の作品なんか好きですけどね。乾館長はもちろん陶芸に造詣が深いのですが、興味を持たれたきっかけは何ですか。

**乾** 実は元々あまり陶芸に関心はなかったんです。若いときはヨーロッパやアメリカの現代美術が入ってきた時で、そっちの方に目が奪われて西洋の近代から現代の美術を学び、大学でもそういうことを教えていました。家にもいろんなやきものがあつたので若い時から見ていたのですが、むしろ年を取ってくると日本の文化や美術のことが気になってきて、一番世界に自慢できるものは、やっぱりやきものじゃないかって思ったのです。西洋の美術との対比の中で日本のやきものがどういう特色があるのかっていうようなことが、割と面白くなってきました。日本人は土の持っている質感や美しさ、それから窯の中の土の変化を珍しがります。ですから土の持つる良さというものを最高度にかさねてきた。丹波焼はその中でも最も日本らしいやきものじゃないかと思っています。

**知事** 日本六古窯の一つでもある丹波焼なんですけれども、その丹波焼の特徴っていうのはどういった点になるんでしょうか。

乾 時代によって変わってきますけれども、やはり鎌倉から室町時代の古いやきものがひとつの典型ですね。丹波の土は少し鉄分があつて焼くと赤く発色し、そこにくべた薪の灰が降りかかつて、それが非常に高い温度で融けガラスのような結晶になつて流れ緑色に変化する。この赤と緑のコントラストが丹波焼の魅力だと思っています。しかもそういうものを持ちながら、桃山から江戸時代にかけてはまた非常に新しいものをどんどん作っていくんです。多彩な釉薬をかけ、形なんかも変化があつて。例えばとっくりの形で、ずいぶんいろんなものを作つて。京都が近かつたということもあるでしょうけど、想像力がすごいですね。



美しい景観にも調和した兵庫陶芸美術館の外観  
館内には研修施設や工房、レストラン、ショップ、さらに茶室も完備

知事 やきものつていうのは時代の要請でもあ

るんですよ。重宝された時は元気でいい作品が生まれているんですよ。ところが需要が小さくなったりすると、元気がなくなつて作品の質も落ちるんですね。これはやむをえないん

ですが、そういう歴史の流れを踏まえながら鑑賞していくというのも非常に楽しいですね。私も九州の佐賀に何年か勤めたことがあるんですが、有田焼で一番典型的な呉須で描いた唐草のお皿があるんですね。有田は江戸時代の初め盛んになり、江戸中期に元気がなくなり、幕末にまた元気を盛り返してくるんですが、時期に応じて図柄が鮮明であつたり、よごんでたり、比較してみるとわかるんですね。だからそういう意味で、産地の力が人を作るっていう面も、作品を通じて味わうっていうのも面白いと思います。特に丹波焼は六古窯のひとつと言われただけあつて、時代を背負つてるので興味深いですね。

## 歴史的なコレクションと 新しい試みで「魅せる」展示

知事 この10月1日にオープンした兵庫陶芸美術館は、乾先生を初代館長にお招きしてすることに象徴されるように、陶芸の歴史を訪ねられるばかりでなく、現代の作家たちのいい作品に触れられる美術館です。田中寛コレクションという素晴らしいコレクションを中心にして、テーマ展等を行います。併せて企画展にも力を入れたと考えています。

乾 収集については、田中さんという大コレクターが貴重な丹波焼のコレクションをお持ちで、それを寄贈していただきました。それがこの兵庫陶芸美術館を建設しようという一つのきっかけとなりました。そういう経緯もあつて、丹波





井戸 敏三(兵庫県知事)

焼を中心とした兵庫県下のやきものを集める

集めますが、外へ広がっていくような美術館にしたいものですから、現代のものや日本全国のやきものを集めたいと思っています。たくさん作家の作品を、あまり肩書きとか団体とか流派とかにこだわらないで、いい作品であれば作品本位でそれを集める。そういう方針でこれからやっていこうと思っています。

知事 そうすると評価をするためのシステムがないと、少し大変ですね。

乾 そうなんです。だから、収集委員会という専門家の先生に来ていただいて、審査をかけます。ただ、その基を選ぶのは我々で、大変重要だと思っています。

知事 そうですね。なんらかの収集の基本的な考え方がないと、集められませんね。

乾 はい。これはやはり私どもが基本的な考え方をきちんと持ってやるべきだと思うんです。古いものはかえって易しいんです。評価が既にある程度決まっていますから。ところが、現代

活躍していますね。

乾 この頃、立杭はなかなか活発ですよ。伝統工芸展なんかでも、随分入選したり賞を取ったりしていますからね。立杭には非常に将来性があると思いますね。

知事 楽しみです。ところで、オープン記念の展覧会「やきもののふるさと丹波 名品でたどる800年の歴史」は評判がいいそうですね。

乾 古い丹波焼というのは、どうも地味なんです。日常に使うものが多く、野暮つたいという観念が非常に強かったんですが、我々はそれを破ろうと思って(笑)。丹波焼は地味だけど、よく見れば非常に魅力があると。そういうのを、分かってもらえるように、ものを選ぶことも大切だし、同時に見せ方も重要だと思うんです。例えば、照明のあて方とか、展示に関して私はうんと力を入れてやりたかった。しかし実際は所蔵者からいいものを借りてこなくちゃいけない。そうするとそのまま裸で見せるっていうの

は非常に流動的で、これはもう我々の目で選ぶしかない。

知事 そうですね。日本伝統工芸展の様子を見ていても、いろいろな作品がありますね。

乾 今は非常に多様なんですよ。

知事 そういう意味では、立杭の若い人たちも随分と

は、所蔵者に対して具合が悪い。それで、結果的にはケースに入れるものが多くなっちゃったんです。もっとオープンに見せたかったのですが。だいたい、丹波のやきものっていうのは、日常使うもの。麗々しく飾りたてるんじゃないくて、日常生活のそばに置くものなんです。そういう見せ方をしたかったのですが。でも、そういうことを今度やろうと思っています。

**知事** このあたも企画展は続きますよね。

**乾** 来春には英国の陶芸家「バーナード・リーチ」の展覧会を予定しています。リーチは丹波にはよく来てましたし、やはり日本の近代陶芸を考える上では非常に重要な作家で、影響力も非常に強かった人です。リーチと交流が深かった富本憲吉や濱田庄司のものも集めます。リーチという民芸という認識が強いですが、むしろリーチを一人の近代的な芸術家としてとらえようという見方も強くなっています。いかに民芸と違った面をリーチが持っていたかというところも少し見せたいなと思っています。



乾 由明(兵庫陶芸美術館館長)

1927年生まれ。京都国立近代美術館事業課長、京都大学教養学部教授、金沢美術工芸大学学長、国際陶芸協会名誉副会長を歴任。抽象絵画から陶芸まで、幅広い分野で美術評論家として活躍し、神戸市文化賞、兵庫県文化賞、瑞宝中紋章等受賞歴も多数。このたび兵庫陶芸美術館初代館長に就任。

それから、第3番目は、「陶芸の未来展」を予定しています。非常にアクチュアルな、現代陶芸の状況を見せようと思っています。そのために一部屋一人、空間全体をつかってやきものでどういう見せ方ができるかっていう、これはちよつと冒険なんです。一度やってみようと考えています。

**知事** 是非たくさんの方々にお越しいただきたいですね。

## 地域とのネットワークと 文化的観点で魅力ある美術館に

**知事** 美術館のあり方としては、展示はもちろん、人材養成や創作学習事業も大切な役割と考えています。立杭のプロの作家たちと連携すれば、陶芸大学院的な機能も果たしてくれるでしょう。さらに、地域との連携も重要です。兵庫陶芸美術館の展望デッキから見ると、立杭のまち並みが眼下に広がり、後ろに山が見え、これこそ陶芸の郷だという雰囲気を感じます。そういう地域の窯元を訪ね歩くという、現地探訪と美術館との関わり合いを作り上げていきたいですね。

**乾** これは非常に大事なことです。特に隣接する陶の郷は、日常使えるような地元の陶芸家の丹波焼が並ぶだけでなく、観光客の方々





白磁罎形貼花菊文壺 出石焼  
明治時代前期



琺瑯碗 翠草秋絵文  
江戸時代後期～明治時代前期

が陶芸を体験できる施設なのですが、お互いに交流を深めていかなくてはいけません。

知事 陶の

郷という既

存の施設がある。それから、兵庫陶芸美術館が開館した。さらに立杭の作家がいらつしやる。

ここにはこれらが3つが揃っているんですね。それで、兵庫陶芸美術館に来られた方が、鑑賞した後に陶の郷に行つて自分で土をひねつてみる。あるいは立杭の作家の所を訪ねて、現在の作品を見て歩く。そして作家の皆さんとお話をする。また、まち歩きをしながら、立杭の雰囲気にも浸る。こういうことができるのです。三者が特性を生かしながら、連携しネットワークを組むことが大切です。一体的に地域全体として活動が展開できる「まちそのものを美術館」というふうにしていきたいですね。

乾 窯元はほぼ2キロの通りに点在しているのですが、非常に規模がいいのですよ。あんまり広くもなく、狭くもなく、ちょうど歩いて回るのはいい距離の大きさなんです。地域と兵庫陶芸美術館とが一体になって、まち全体を一つの大きな美術館にしたいという思いが、非常に強いんです。ただ、今のままではやはり…。もう

少し散策できるような設備をつくるのか、道をよくするとか、所要所に休憩できるベンチを置くとか、そういったことを考えなくてはいいじゃないと思いますね。しかし、それをあまりにやりすぎると困るんです。きれいになりすぎると、かえって昔の立杭が持っている山里の雰囲気というものがなくなってしまう。それは避けなくてはいいけない。その兼ね合いが、非常に難しいと思うんですね。地元の人とよく話し合つて実現したいですね。

知事 先ほど、美術館の展望デッキから見た立杭の風情っていうのは素晴らしいんだというふうに言いましたけど、瓦と、背景の山、それから木造の家屋、これが醸し出す雰囲気なんです。ですから、これらをきちんと守っていく、そして育てていくためには、地域の方々の協力を得なければいけません。景観形成地区というような景観保全のための努力をしていくということも大事だと思います。あと、立杭の人たちは兵庫陶芸美術館ができたということで、自分たちでまちづくりを進めていこうと考えられています。作家の方々は兵庫陶芸美術館に、例えば研修の講師になるとかいろいろと協力したいと考えてもおられます。そういう意味では、手を携えていけば素晴らしいまちづくりができていくと思うんです。それから館長もおっしゃったように、私もいじりすぎては駄目だと思います。やはり、陶芸の醸し出す雰囲気っていうのは、近代的な美術館で作品を見るのもいいですが、作品が作られてる現場で眺める良さというのも素晴らしいと思いますね。

乾 まさにその通りです。私はやきものを見ますが、一人の作家のやきものを理解しようと思おうと作っている現場を見ないと分からない。やはり現場を見るとするのは知識にもなるけれども、大変楽しい。それを一般の人にも味わっていただきたいですね。

知事 それと、兵庫陶芸美術館の特色は、乾館長のご指導もあってスタッフが揃っていることなんです。企画力がないと、美術館は単に倉庫になってしまふ。陶器とか磁器とかは何も語ってくれませんが、どのようなものを語れる展示をしていくか、それは企画力なんです。

乾 美術館は、ただ展覧会をやれば人が来るという時代じゃなくなってきました。やはり積極的に美術館を魅力あるものにしないといけない。そのためには、美術以外のこともやっていいのではないのかと。例えばレストランや、展望デッキなど、立杭のまちを一望できるロケーションの良さを活用して、いろいろイベントや音楽をやるとかして若い人にもどんどん来ていただきたいですね。

そしてもうひとつはやはり教育ですね。やきものをやるうかという若い人の研修のために、地元作家にとどまらず、日本全国あるいは時には外国からも有名な作家を呼んで、ワークショップというようなこともやりたい。それから、子どもの教育も私は大事だと思います。感覚的教育というか感性の教育というか、そういったものはとても大切です。そのために土でもものを作るといったことは非常にいい方法だと思います。そのようなことも兵庫陶芸美術館で積極的にや

っていきいたい  
と思っております。

知事 現在兵庫県では非常に陶芸が盛んになって、多くの作家がいらっしゃるのですが、そういう方々の拠点というような機能を持った美術館にしたいと思っております。

それから、舞台が非常によくそろったわけですが、舞台がそろっても、役者がいないといけません。来ていただく方々には自分から俳優になっていただき、兵庫陶芸美術館や陶の郷や立杭のまちを歩き演じてほしいのです。参加してほしいんです。それとあわせて、それを支援する、支える脇役が、我が兵庫陶芸美術館のスタッフだとか、陶の郷のスタッフだとか、立杭の作家の方々だとか、あるいはまちの方々だとかということになると思います。主役はあなたです、という「まちそのものを美術館」にしたいですね。



兵庫陶芸美術館のライティングに工夫を凝らした展示室  
露出展示もあり、いろいろな角度から風合いを鑑賞することもできる